

第4期第2回詳報

避難で明暗対策重要

「生き抜く行動を」訴え

311
次世代塾
 伝える／備える

東日本大震災の伝承と防災の担い手育成を目的に河北新報社などが開く通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第4期は6月、第2回講座をウェブ配信した。「避難の現場」をテーマに、日鉄建材執行役員の平山憲司さん(59)と医療法人くさの実会(気仙沼市)常務理事の猪苗代盛光さん(72)が、避難の教訓について証言した。

平山さんは震災発生時、仙台製造所(仙台市宮城野区)の所長だった。揺れの後、従業員76人は敷地内にある海拔10mの築山に7分

で避難した。津波は一帯を襲い、築山にいた従業員の足元に迫ったが、ぎりぎりのところで助かった。

平山さんは「訓練の積み重ねが短時間の避難につながった」と事前の対策の重要性を強調。「日本は災害が多いので、定期的に震災を振り返り、備えの大切さを次世代に伝えてほしい」と訴えた。

猪苗代さんは気仙沼市の介護老人保健施設「リバーサイド春圃」の施設長を務めていた。震災発生直後、施設には職員53人と利用者133人がいた。全員が最

上階の2階に避難したものの、そこにも津波が達し、利用者47人が犠牲となった。

「2階への避難はマニュアル通りだったが、多くの人がしなくなった。どうすれば



2階まで津波に襲われたリバーサイド春圃(奥中央)＝気仙沼市浪板、2011年3月中旬

メモ 311「伝える／備える」次世代塾を運営する推進協議会の構成団体は次の通り。河北新報社、東北福祉大、仙台市、東北大、宮城教育大、東北学院大、東北工業大、宮城学院女子大、尚絅学院大、仙台白百合女子大、宮城大、仙台大、学都仙台コンソーシアム、日本損害保険協会、みちのく創生支援機構。

受講生の声

「大規模災害が起きたとき

に、生き抜き、日常を取り戻す行動をとってほしい」と呼び掛けた。

地域知り備える

災害への備えとして「自分の住む場所、勤務する場所は特に、災害の歴史と土地勘を身につける」という平山憲司さんの言葉が印象に残りました。自宅周辺だけでなく、大学など自分がよく行く場所のハザードマップも調べておくべきだと思います。(仙台市太白区・宮城学院女子大3年・梨本澪さん・20歳)

過酷な状況実感

津波で破壊されたリバーサイド春圃の写真を見て、被害の大きさを実感しました。避難所でも多くの高齢者が倒れるなど、過酷な状況だったことが分かりました。高齢者や障害者が安全に避難できるよう、防災や減災について考えを深めたいと思います。(仙台市若林区・尚絅学院大3年・佐藤佳旺さん・20歳)

